美術教育の方針(二)

黒田清輝

▲・・・・・歐洲之藝術

今の世紀は科學の時代なり、科學思想の發達が美術の變動を誘ふは自然の勢にして、歐洲の藝術が此變化を受けて蹉跌することなく、却て新思想を發揚して新しき方向に進歩の跡を顯はし、一種の光彩を輝すものは其故なかるべからず、思ふに彼美術は鞏固にして動すべからざる基礎の上に建てられたるものにして、此基礎たるや、假令人文の進運如何なる方面に向ふとも易ることなく、假令千古の久しきを経るも變ずべからざるなり。

▲・・・・・希臘術は歐洲藝術之基礎

何れの邦國又何れの時代を問はず、造形的藝術の完全なる發達を爲したること、希臘時代に比すべきものあらざれば、公正なる鑒識を有するもの、等しく認諾する所にして、希臘の土地と上古の生民と其時代の境遇及び習俗は、美術の培養に適當なるあらゆる條件を具備し、最自然に且つ最道理的なる物形を作り出すの道早く生じて二千餘年を隔てたる今世に向つて確乎たる基礎を與へたり、今の藝術は、其變態様々なりとも、其根元を養ふは希臘遺作なることを忘るべからず。

希臘の藝術は、中古の暗黒時代に至りて一旦懷滅に歸し、開化の光消えて社會は幼稚なる人間の原性に退き、道理的物形を造るの術、一時歐洲の諸邦に忘失せられたるが此間に生じたる藝品は、幽冥なる宗教思想を表現する

が爲めに、今日之を研究するものなきにあらざれど、固より一部の好奇家が、趣味の珍奇なるを賞翫するに止まり、敢て美術の眞價を屬するに足らず、爾後一千餘年を経て、以太利の舊土に文藝復興の氣運熟するや、從來の無氣無能なる藝術は影を納めて、道理的藝術は次第に諸邦に起る此氣運を促したるは、希臘美術の遺作多く發見せられて、藝術復興の道開けたるに依る。

▲復興時代の藝術

復興時代の藝術が、希臘遺作の完全なる物形に倣はんが爲に、資を求めたるもの、一は天然の實寫に依りて技法を練り、一は學理の教に依りて物形の眞を確實にせり、健然なる人體を作るを以て藝術の心髓とし、又修養の基本としたるは實に希臘術の精神にして、復興時代より以降現今に至るまで承繼して渝らざるもの歐洲藝術の特色たる所なり。

【『二六新報』明治三十三年三月二十六日】